

スイカ

芝山経済センター 営農指導員 伊藤 統之



写真3 うどんこ病の初期症状



写真4 うどんこ病の激発症状

表3 スイカの防除暦

生育時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数
育苗期	うどんこ病・つる枯病・菌核病	ベルコートフロアブル	1000倍	収穫前日まで	4回以内
	アブラムシ類	ウララDF	2000倍	収穫前日まで	2回以内
つる引き後	菌核病・つる枯病	スミレックス水和剤	1000倍	収穫7日前まで	5回以内
	うどんこ病	ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
着果後	アブラムシ類・アザミウマ類	プロパティフロアブル	3000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
	うどんこ病	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
玉直し後	うどんこ病	ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
肥大期	うどんこ病・つる枯病・炭そ病	シグナムWDG	1500倍	収穫前日まで	3回以内
	ハダニ類	ダニオーテフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
肥大期	褐色腐敗病	レーバフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内

2月の分析経過について

合計2点

残留農薬分析点数	多成分一斉分析	合計2点
	レタス	1点
	春キュウリ	1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 …… 合計75点

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから(登録無料)



JA山武都市の組合員ならどなたでも登録できます。

農業

テクニカルダイアリー

落花生

営農部営農振興課 営農指導員 石井 枝里奈

栽培のポイント

●畑の準備(播種(5月中下旬))

元肥に落花生専用(5-15-20)を10㎡当たり60キ、苦土石灰を10㎡当たり60キ、80キ施用します。準備ができたなら、ベッドを作ったマルチ(2条用、畝間130センチ、株間30センチ)を敷き、1〜2粒ずつ播種します。鳥害対策として、播種前にキヒゲンR-2フロアブルで種子消毒を行います。

●病害虫対策

表1を参考に、薬剤防除を行ってください。白絹病や茎腐病の被害株は早めに抜き取りましょう。

●マルチ除去(6月下旬)

収量・品質が低下しないよう、開花期(圃場の50%の株に1輪でも花が咲き始める頃)から7〜10日後にマルチを除去し、雨水や灌水した水が浸透するようにしましょう。

●中耕(6月下旬〜7月下旬)

開花初期から1〜2回、中耕を行います。子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる効果があります。除草も兼ねて7月下旬までに行いましょう。

病害虫について

近年は4月以降の気温上昇が常態化しており、特にアブラムシ、ハダニ、アザミウマ類などの害虫の発生を助長しています。また、つる枯れ病や菌核病の発生は減り、うどんこ病のような、やや高温下で発生する病気が増えています。

うどんこ病は、症状が少し見える程度でも菌は広がっており(写真3)、激発すると葉が茶色く枯れ上がります(写真4)。昨年は育苗期に発生が見られ、定植後はさらに被害が拡大して作柄に大きく影響し、減収となった圃場もありました(写真5)。圃場での防除では発生を止めることが困難であるため、育苗期

●灌水(7月下旬〜8月中旬)

結実〜莢肥大期に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空莢が発生し、収量が大きく低下します。畑が乾いているときは1回当たり30〜40センチ灌水してください。

●試し掘り(9月中旬)

収穫が遅れると落ち莢が多くなったり、食味が低下したりするので、必ず試し掘りをして収穫適期(表2参照)を逃さないようにしましょう。

●乾燥(9月中旬)

掘り取り後は5〜7日間地干しします。その後、風通しの良い場所で野積みし、ブルーシートや稲わら等で覆います。近年の秋の台風や長雨の影響による品質低下を防ぐため、平積みにもトンネルを掛ける乾燥方法もあります。十分に乾燥させた後、脱穀調整してください。

新品種「おおまさりネオ」

大莢のゆで豆用品種「おおまさり」の大株で栽培しづらい、病気に弱いといった短所が改善された後継品種です。草型は立性で「おおまさり」よ

表1 落花生に登録のある薬剤

薬剤名	対象病害虫	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数
フォース粒剤	コガネムシ類幼虫	播種時	9kg/10a	1回
トクチオン細粒剤F	ヒョウタンゾウムシ類	収穫60日前まで	9kg/10a	2回以内
トップジンM水和剤	褐斑病、茎腐病	収穫7日前まで	1500倍	4回以内
フロンサイド粉剤	白絹病	収穫45日前まで	20kg/10a	1回

表2 収穫適期の目安

開花期後日数	品種名
70日	郷の香(ゆで豆用)
80日	ナカテユタカ、Qなつつ
90日	おおまさり(ゆで豆用)
95日	千葉半立



写真1



写真2

「おおまさりネオ」と「おおまさり」の比較

(写真提供: 千葉県農林総合研究センター)



写真3 うどんこ病の発生圃場(葉が茶色く枯れ上がる)

りもコンパクトな草姿をしていますが、莢実の大きさ・食味・収量はほぼ同等です(写真1②)。立性のため株間を広くとる必要がなく、一般的に使われる株間30センチの2条用マルチで栽培できます。施肥量や収穫期は従来どおりです。

が「おおまさり」よりも白絹病や茎腐病に強く、栽培しやすくなりました。ただし、莢実の充実を促進するため、開花期から20日後以降は定期的に灌水してください。※種子数量が確保できていないため、既に種子の注文は締め切っています。